



日本キリスト教団
三軒茶屋教会

三軒茶屋 教会通り

第20号 2004年4月発行

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: (03)3418-4933
編集/発行: 広報部

子どもの成長と家庭



牧師 陣内厚生

フォト・ジャーナリストの後藤健

二氏が世界各地の子どもたち取材して作った映像、『ようこそボクらの学校へ』を教会に贈って下さいました。就学年齢に達しているのに学校に行けない、行きたくても学校がないなど、世界中には子どもたちの環境が整っていない国が本当に多いことが分かります。子どもは、大人たちの都合で醸し出される社会状況下で、良くも悪くも変えられてしまいます。言いかえれば、子どもの幸せ度はその国や社会の成熟度を測る目安となるのかもしれない。

我が国ではどうなのでしょう。経済的な豊かさは高度の社会整備を実現しました。これでもか、これでもかと言うように、新しい物が生み出され、大人も子どももそれを享受しました。それを得ることが幸せの必需品であるかのように思っています。しかし、いま子どもたちは決して幸せの中にいるとは言えません。それならば、昨今、社会問題となっている子どもをめぐる種々の事件、親子の関わり方や家庭の実態に目を向け

る必要があります。

第一に、社会全体を覆っている経済優先の論理が、いまや家庭の中にも入り込んできました。本来、家庭には社会の価値基準とは違う、家庭の論理が優先されるべきなのに、誤まった論理に侵された親たちがおかしくなってしまうのです。従って第二に、親子本来の関わり、自分の思いや不安を共感して受けとめてくれる相手や場を求めているにもかかわらず、この交わりを自ら破壊してしまいました。これでは人間的な豊かさは育つはずはないでしょう。第三に、人知を超えたもの、神秘的な出来事などへの畏敬や祈りの欠如です。アファニスタンで活躍している中村哲医師は、日本人のまさにこの弱点を指摘しています。授かりものとしての生命への理解、家族の厳粛な死への哀しみ、自然との共生と共感など、家庭でこそこの感性を養わねばなりません。

さて、私たちは、子育てを考えるために聖書に聴こうと思います。そ

* * *

もそも親子とは何か、家庭とは何かを尋ねるならば、イスラエル信仰共同体における家庭は、教育の責任の単位とされました。すなわち、申命記六章四―五節「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」が、家庭教育の中核となっています。神の意志を探求することを、共同体の務めとして明確に示されました。また、十戒の第五戒「あなたの父母を敬え」は、神の救いと恵みを前提として、親子の関係を再認識することなのです。

さらに、新約聖書では、キリストによる「神の家族」(エペソ・二の一九)という新しい共同体を形成します。ここでは、血縁の枠を越えて新しい信仰というつながりで組み合わされています。この意味は、子どもを教会という共同体に入れ、その関係の中で育てていくということではないでしょうか。信仰の継承という役割を考えない家庭は、もはや聖書の言う家庭ではないのです。

1